

【研究ノート】

日本語の性差に関するロシア人日本語学習者の意識調査報告
——翻訳文の自称詞と文末詞に注目して

宿利由希子/カリュジノワ マリーナ/大内将史/プーリク イリーナ
ミロノワ リュドミラ/シモノワ エレーナ/ノヴィコワ オリガ

要旨

本調査では、ロシア語を母語とする日本語学習者（以後、ロシア人日本語学習者、あるいは、ロシア人学習者と略）の日本語の性差に関する認識や意識を明らかにするため、実在の日本語非母語話者スポーツ選手のコメントとして最適の和訳を複数の可能性の中から選択する質問紙調査を行った。その結果、「男ことば」については半数ほどの学習者が「報道が使用した和訳」を選択した一方、「女ことば」では「報道が使用した和訳」を選択した者が全体の14.3%しかいなかった。また、1名のスポーツ選手の和訳選択の結果と、日本語能力試験の合格級、日本語学習期間、教室外日本語使用頻度、日本語で「インターネット記事を読む」、「アニメ・ドラマ・映画を見る」、「小説・マンガを読む」「ロシア国内で（日本人との）交流事業に参加する」といったロシア人学習者情報との間に弱い正の相関が認められた。

キーワード

男ことば、女ことば、役割語、日本語訳、ロシア語母語話者

1. はじめに

「男の人は友達と話すとき「ぼく」と話しますか。「おれ」と話す人はどんな人ですか」「日本でテレビの映画を見たとき、白人女性の吹き替えで語尾が「～わ」「～のよ」となっていたが、日本人の友達はそのような話し方をしていない。あれは外国人用の話し方ですか」筆者らが教壇に立つロシアの日本語教育現場では、ロシア人学習者からこのような質問をされることがある。

日本語には性差があるとされ、言葉の性差の使用実態調査やそれらに対する意識調査など、数々の研究がなされてきた（尾崎 1997 他）。「このような人物はこのような話す」という現実の言語使用である「位相語」に対し、「このような人物はこのような言葉づかいで話しそうだ」という人々が共通して持つ観念に則った言語使用は「役割語」と呼ばれ、小説やドラマなどのフィクションの描写の材料となっている（金水 2003）。また、「男ことば」「女ことば」の中には、男性や女性が自発的に使い始めたものではなく、フィクションなどで繰り返し使用されることによって広まったものもある（中村 2003; 2013）。このような言葉の性差の役割語は、小説やドラマだけでなく、実在する海外スポーツ選手のインタビュー記事の和訳にも現れている（太田 2009）。

日本語教育教材で扱われる言葉の性差は現実の言語使用と合っていないものが多い。「男ことば」の自称詞「ぼく」「おれ」は、実際には学習者と同年代の若者世代に使われているが（大和田 2010）、日本語教育教材では「ぼく」が限定的に扱われ、「おれ」はほとんど扱われていない（詳細は 2.3 参照）。また、「女ことば」の文末詞「～わ」「～かしら」（以下、女性文末詞）は、実際の使用率は低いにもかかわらず、日本語中級教科書の会話場面では使用率が 60%を超えている（水本他 2009）。日本語教育教材は、現実の言語使用とは異なる「男ことば」「女ことば」の役割語的側面を扱っている可能性があるということだ。

役割語の使用は一般の会話の中でストラテジーとして出現することがままたり (因 2003)、役割語を用いた発話の含意を見落とすと、発話解釈に失敗する恐れがある。そのため、筆者らは日本語教育現場でも日本語の性差について、位相語的側面と役割語的側面を分けて指導していく必要があると考えている。それにはまず、日本語学習者が言葉の性差をどう理解しているか、学習者の認識や意識を明らかにし、実情を把握する必要がある。本調査では、日本語の性差の役割語的側面の強いものとして、インターネットニュースに掲載された実在の日本語非母語話者スポーツ選手のインタビューコメントに注目し、それらに対するロシア人学習者の認識を、最適の日本語訳を複数の可能性の中から選択する質問紙調査結果から分析した。

2. 先行研究

2.1 「男ことば」「女ことば」の位相語と役割語

位相語と役割語をはっきり区別し線引きするのは難しいが、大まかに分けて考えると、「男ことば」と「女ことば」の間に差があることがわかる。男ことばの自称詞「ぼく」と「おれ」は、学習者と年代の若者世代の間ではスタイルの使い分けとして使用されており (大和田 2010)、位相語として考えた場合、近年は「ぼく」より「おれ」の方が男性の自称詞として標準化しつつある (金水 2015)。一方役割語として考えた場合、「ぼく」は「理想を追い求める賢いヒーロー」、「おれ」は「野性的で強いヒーロー」という話者像の違いが存在している (金水 2003; 金水 2015)。競技直後のインタビューの和訳テロップに出た、競泳金メダリストのマイケル・フェルプス (以下、フェルプス) と陸上短距離金メダリストのウサイン・ボルト (以下、ボルト) の自称詞を比較した太田 (2009) は、フェルプスの自称詞「I」の訳に「私」「おれ」がなくすべて「ぼく」だったのに対し、ボルトは「私」「ぼく」「おれ」の3種類に訳され、「おれ」が一番多かったことを報告している。スポーツ放送の翻訳においても役割語の知識が影響を与えていることがうかがえる。

自称詞「わたし」「わたくし」は性別を問わず書きことばにも公的な話しことばにも用いられる中立的存在である (金水 2003: 123)。位相語として考えた場合、小学生などの子どもは改まった場面でも「わたくし」を使用することはほとんどなく (三枝 2010)、それ以上の年代層に使われる自称詞だと考えられる。役割語としては、標準的な「わたし」に対し、「わたくし」は「お嬢様」「女王様」「女召使い」などをイメージさせる (金水 2015)。また、女性文末詞「～わ」「～よ」は位相語として考えた場合ほとんど使われていないが、役割語としては女性としてふるまう話者なら子供から大人まで広く使われる (金水 2015)。この傾向はフィクションの中だけでなく実在する人物の発言の和訳にも見られ (中村 2013: 18)、棒高跳び金メダリスト、エレナ・イシンバエワ (以下、イシンバエワ) の競技直後のインタビュー和訳テロップに、「～わ」などの女性文末詞が使われていることが報告されている (太田 2009)。

2.2 ロシアにおける役割語と言葉の性差に関する研究

ロシア語にも役割語の存在をうかがわせる研究はいくつかある。バフチン (1975: 146) の「小説における話者は社会的人間であり、歴史的に具体化され決定されており、その言葉も社会的言葉であり、「個人的言葉」ではない」という指摘は、まさに小説の登場人物の言葉づかいが当世の人々の話し方に関する意識を反映するという指摘であり、役割語としての機能に言及していると考えられる。また、ロシア語原文で表現された話者像を他言語に翻訳する際どう表現するかという問題を扱った翻訳学の研究もある (ワシリチェンコ 2007)。

言葉の性差については、位相語的側面や文法的側面に注目した研究が行われている。ゼムスカヤ他 (1993) は、男性には専門用語を伴う客観的説明や、女性と異なる下品な言葉の使用などの

特徴が、女性には身近な具体的話題の提示、男性より大げさな表現が多いなどの特徴が見られることを報告している。「女ことば」には、感情の表現、呼びかけの表現、丁寧表現、質問的表現などが見られ、多様なイントネーションや、声調の範囲の広さなどの特徴があるという指摘もある（コロステリョワ 2007）。また、女性の過去形には語尾に「a」を付けるという文法的ルールがある（小原 2003）。しかし、ロシア語の「男ことば」と「女ことば」を分けるマーカーは言語全体に散らばっており、ほとんど文法化されていないため、この2つをはっきりと区別するような手段はないという指摘もある（コロステリョワ 2007）。

以上で見たとおり、ロシア語には役割語も言葉の性差も存在すると考えられる。これらの存在が、ロシア人学習者の日本語の役割語や言葉の性差への理解にも影響する可能性がある。

2.3 ロシアの日本語教育教材における日本語の性差の扱い

ロシアの日本語教材では日本語の性差に関する表現を文法ルールのように紹介している。水本他（2009）で調査対象とならなかった、ロシアで出版された初級・初中級用総合教科書『初心者のための日本語（Японский язык для начинающих、以下、『初心者』）』、『日本語で読む・書く・話す（Читаем, пишем, говорим по-японски）』、文法・語彙参考書『日本語における終助詞（Заключительные модально-экспрессивные частицы в японской речи、以下、『終助詞』）』における、性差に関わる自称詞と文末表現について調べた。前者2つは現在もロシアの日本語教育現場で広く使われている古典的教科書である。

前者2つの教科書で、自称詞「わたし」「わたくし」「ぼく」は扱われているが、「おれ」は扱われていない。また、「わたくし」は「わたし」より改まった表現、「ぼく」は「男性の言葉」「インフォーマルな会話」といった簡単な説明しか書かれていない。

文末表現については、『初心者』で「だ」「だい？」などが男性の文末表現として扱われ、「～わ」「～かしら」などの女性文末詞と区別して紹介されている（例1参照）。また、女性文末詞については、終助詞「わ」がつく場合、「感情を表したり強調したりする女ことば」という説明があり、「普通形+わ」と「丁寧形+わ」の違いは、インフォーマルかフォーマルかという点だけであるとしている。終助詞「よ」がつく場合、前者2つの教科書に「普通形+よ」と「丁寧形+よ」の違いはインフォーマルかフォーマルかという点だけで、「強調、自信を伝える表現」「男性も女性も使う」という説明があるが、「体言+よ」に関しての言及はない。『終助詞』には、「普通形+よ」が「男ことば」であり、「女ことば」において「だよ」は使用されず、「だわよ」もしくは「体言+よ」となる」という記述がある。

以上のとおり、ロシアの日本語教材では、どのような男性／女性がどのような場面でどのように発話するのかという説明がなく、日本語の性差に関する表現を文法ルールのように紹介している。また、「ぼく」と「おれ」の違いや普通形と丁寧形の違いを、インフォーマルかフォーマルかという観点からしか見えていない。

例1 次の会話文を読んで、ロシア語に訳しましょう。男性同士（1）と、女性同士（2）の会話の違いに注意しましょう（『初心者』：73-74）。

※下線は男女で差が認められた部分（筆者らによる）

(1) 男性同士	(2) 女性同士
- 大学までどのくらいかかる <u>んだい</u> ？	- 大学までどのくらいかかるの？
- そうだな。一時間ぐら <u>いかな</u> 。	- そう <u>ねえ</u> 。一時間ぐら <u>いかしら</u> 。
- そう。バスで？	- そう。バスで？
- うん、バスと地下鉄。バスで地下鉄の駅まで行って、それから地下鉄に乗りかえる <u>んだ</u> 。	- ええ、バスと地下鉄。バスで地下鉄の駅まで行って、それから地下鉄に乗りかえる <u>の</u> 。

- バスの本数は多いのかい？ - いや、あまり多くない <u>ね</u> 。時々ながい時間待つ <u>よ</u> 。(以下省略)	- バスの本数は多いの？ - ううん、あまり多くない <u>わ</u> 。時々ながい時間待つ <u>の</u> 。(以下省略)
---	--

3. 意識調査

3.1 調査概要

質問紙調査は、2014年4月から10月に、計210名^{注1}のロシア語を母語とする日本語学習者(以下、学習者)を対象に、ノボシビルスク、ユージュノサハリンスク、モスクワで行った(表1参照)。学習者の結果や先行研究と比較するため、ノボシビルスクを訪れた20代から40代の日本語母語話者(以下、母語話者)男性5名、女性4名の計9名にも同様の調査を行った。

表1 質問紙調査対象学習者の年齢と性別(有効回答者数209名、有効回答率99.52%)

	年齢					合計
	10代	20代	30代	40代	50歳以上	
男性	10名	23名	0名	0名	0名	33名
女性	53名	103名	11名	4名	5名	176名
合計	63名	126名	11名	4名	5名	209名

調査内容は、太田(2009)で取り上げられたボルト、フェルプス、イシンバエワの金メダリスト3名の、英語もしくはロシア語原文のインタビュー記事の和訳について尋ねるものとした。ロシアでも閲覧可能なインターネットニュース記事で、インタビュー原文と一緒に写真が載っており、同様のインタビュー記事の和訳ページが存在するものを採用した。質問紙では、3名の話者の写真とインタビュー原文を提示し、その和訳としてふさわしいと思うものを4つの選択肢から1つ選んでもらった(表2参照)。また、どのような理由でその和訳を選んだか知るため、話者のイメージについても尋ねた。

表2 話者の発話内容原文と和訳 ※URLは2014年3月31日閲覧

話者の“発話内容”と記事 URL	和訳(太字ゴシックは報道が使用した和訳)と記事 URL
ボルト “I’m a legend.” BBC Sport < www.bbc.com/sport/0/olympics/19204226 >	1 わたしは伝説です 2 自分は伝説です 3 ぼくは伝説だ 4 オレは伝説だ (sansupo.com< www.sansupo.com/london2012/news/20120810/ath12081011510011-n1.html >)
フェルプス “I’m fine.” DAILYNEWS < www.nydailynews.com/entertainment/gossip/michael-phelps-drunk-beer-hour-car-crash-article-1.401223 >	1 わたしは大丈夫です 2 自分は大丈夫です 3 ぼくは大丈夫 (日刊スポーツ.com < www.nikkansports.com/sports/news/f-sp/tp0-20090816-531720/html >) 4 オレは大丈夫
イシンバエワ “Это как золотая медаль для меня.” Moidagestan.ru < http://www.moidagestan.ru/news/sport/19704 >	1 ^{わたくし} 私にとっては金メダルだわ 2 ^{わたくし} 私にとっては金メダルですわ 3 わたしにとっては金メダルよ (毎日新聞< mainichi.jp/sports/news/20120807k0000e050135000c.html >) 4 わたしにとっては金メダルだよ

3.2 調査結果

母語話者はボルトとフェルプスに対して、先行研究の「おれ＝野性的で強い」「ぼく＝理想を追い求める賢い」という指摘に近いイメージを持っていることがわかった。母語話者の50%以上が、ボルトに「力強い(100%)」「野性的な(100%)」「男性的な(66.7%)」、フェルプスに「努力家(88.9%)」「男性的(66.7%)」というイメージを持っている。また、イシンバエワには「女性的(77.8%)」

「勤勉 (55.6%)」というイメージを持っている。

一方学習者は、ボルトに「力強い (89.5%)」「勤勉 (67.1%)」「男性的 (61.9%)」、フェルプスに「男性的 (63.3%)」「勤勉 (59.0%)」、イシンバエワに「勤勉 (79.5%)」「女性的 (74.8%)」「力強い (65.7%)」というイメージを持っている。母語話者が話者3名に持つイメージと、回答が全部一致した学習者は72名 (34.3%) であった。

和訳の選択では、母語話者の半数以上がインタビュー記事和訳のとおり (以下、「報道が使用した和訳」) の回答をしたのに対し、学習者で「報道が使用した和訳」を選択した者は半数以下で、イシンバエワに「報道が使用した和訳」を選んだのは全体の14.3%にとどまった (表3参照)。

また、学習者の和訳選択と学習者情報との相関を調べたところ、ボルトの和訳選択の結果と、ボルトに対する母語話者のイメージとの一致、JLPT合格級、日本語学習期間、教室外日本語使用頻度、日本語で「インターネット記事を読む」、「アニメ・ドラマ・映画を見る」、「小説・マンガを読む」「ロシア国内で交流事業に参加する」という条件の間に弱い正の相関が認められた (表4参照)。学習者情報とフェルプス、イシンバエワの和訳選択との間に、相関は認められなかった。

表3 母語話者と学習者の和訳選択結果

話者 “発話内容”	和訳	母語話者 人数 (有効%)	学習者 人数 (有効%)
ボルト “I'm a legend.”	1 わたしは伝説です	0名/9名(0.0%)	26名/208名 (12.4%)
	2 自分は伝説です	0名/9名(0.0%)	13名/208名 (6.2%)
	3 ぼくは伝説だ	1名/9名(11.1%)	75名/208名(35.7%)
	4 オレは伝説だ	8名/9名(88.9%)	94名/208名(44.8%)
フェルプス “I'm fine.”	1 わたしは大丈夫です	3名/9名(33.3%)	42名/206名(20.0%)
	2 自分は大丈夫です	0名/9名(0.0%)	25名/206名(11.9%)
	3 ぼくは大丈夫	6名/9名(66.7%)	105名/206名(50.0%)
	4 オレは大丈夫	0名/9名(0.0%)	34名/206名(16.2%)
イシンバエワ “Это как золотая медаль для меня.”	1 私 ^{わたくし} にとっては金メダルだわ	2名/9名(22.2%)	34名/205名(16.2%)
	2 私 ^{わたくし} にとっては金メダルですわ	0名/9名(0.0%)	100名/205名(47.6%)
	3 わたしにとっては金メダルよ	7名/9名(77.8%)	30名/205名(14.3%)
	4 わたしにとっては金メダルだよ	0名/9名(0.0%)	41名/205名(19.5%)

※人数は順に回答者数/有効回答者数 (有効%)

※ゴシック太字は「報道が使用した和訳」の回答者数/有効回答者数 (有効%)

表4 学習者情報と学習者の和訳選択結果に関する Pearson の相関係数

	ボルト (208名)	フェルプス (206名)	イシンバエワ (205名)
母語話者の話者のイメージとの一致(207名)	0.279** (207名)	-0.083 (205名)	-0.151 (205名)
JLPT合格級(98名)	0.201* (98名)	-0.038 (98名)	-0.081 (98名)
日本語学習期間(208名)	0.301** (206名)	0.095 (204名)	-0.108 (203名)
教室外日本語使用(208名)	0.210** (206名)	-0.087 (204名)	0.133 (203名)
記事を読む(210名)	0.232** (208名)	0.038 (206名)	-0.116 (205名)
アニメ・ドラマ・映画を見る(210名)	0.203** (208名)	0.055 (206名)	-0.093 (205名)
小説・マンガを読む(210名)	0.359** (208名)	0.008 (206名)	-0.122 (205名)
ロシア国内で交流事業に参加する(210名)	0.253** (208名)	0.060 (206名)	-0.108 (205名)

※ () は有効回答者数、ゴシック太字は低い相関 ($0.2 < r \leq 0.4$) が認められた項目の相関係数、**は1%水準で有意、*は5%水準で有意。

4. 考察とまとめ

和訳選択を話者ごとに見ると、ボルトには「おれ」の他に「ぼく」を選んだ学習者が多いこと

がわかる。これは、半数近くの学習者が「ぼく」「おれ」は「男ことば」だと知っているが、「どのような人物がどのような場面でこのような言葉づかいをしそうか」という役割語の知識は持っていないことを表している。また、教科書で扱われていない「おれ」に関しては、フィクションやインターネット記事、母語話者との接触などで「男ことばだ」という知識を得た可能性がある。

フェルプスに「わたし～です」「自分～です」の丁寧体を選んだ学習者が 31.9%いたのに対し、ボルトには 16.6%の学習者しか丁寧体をあてなかったのも興味深い。この傾向は母語話者の結果にも共通する。ボルトとフェルプスの和訳選択の違いが、話者のイメージのどの部分による影響なのか、インタビューなどでさらに探る必要がある。

イシンバエワの「体言+よ」の学習者の回答率は低く、「普通形+わ」「丁寧形+わ」を選択した学習者が多かった。これは「～わ」が「女ことば」であるという刷り込みと、「女性は丁寧に話す」というロシア語の「女ことば」の特徴が影響していると考えられる。ロシアで使用されている教材には「～わ=女ことば」という説明があり、今回の調査でも「「～わ」は女性の言葉」とコメントした学習者がいた。また、2.2のロシア語の性差の特徴で見たとおり、「女ことば」には男性より丁寧表現が多い。調査後、「イシンバエワは女らしくて丁寧だから「ですわ」を使いそう」とコメントした学習者がいた。一方、「体言+よ」が「女ことば」の役割語であることはまだ浸透していないようである。

以上のとおり、本調査では学習者の日本語の性差に関する認識や意識を明らかにするため、実在の日本語非母語話者スポーツ選手によるインタビューへの返答の最適な日本語訳を選択する質問紙調査を行った。その結果、「男ことば」については半数ほどの学習者が「報道が使用した和訳」を選択したのに対し、「女ことば」では「報道が使用した和訳」を選択したのは 14.3%であった。また、学習者のボルトの和訳選択の結果と、ボルトに対する母語話者のイメージとの一致、JLPT 合格級、日本語学習期間、教室外日本語使用頻度、日本語で「インターネット記事を読む」「アニメ・ドラマ・映画を見る」、小説・マンガを読む」「ロシア国内で（日本人との）交流事業に参加する」といった学習者情報との間に弱い正の相関が認められた。

しかし本調査は、対象とした話者も役割語も種類が少なく、調査対象者の人数も十分ではないため、これを断定的な結論とすることはできない。本調査で用いた発話が、場面と切り離して提示された点にも問題が残る。ボルトとイシンバエワの発話が競技終了直後のインタビューであったのに対し、フェルプスは競技とは関係ない交通事故後のインタビューである。それぞれの発話は異なるメディアから取り出されたものであり、これらの表現がどの程度、他の場面やメディアで共有されているのか、本調査からは読み取れない。本調査はあくまで予備調査という位置付けとし、質問紙の内容を検討・修正した上で、今後さらに調査したい。

また、役割語をどのように日本語教育に生かすかという点も今後の課題である。一般の会話の中では役割語がストラテジーとして使用されることがある。因 (2003) は、役割語としてのジェンダー表現が、会話の中で自己演出の手段としてだけではなく、「冗談」「深刻さの緩和」などのストラテジーとなることを指摘している。また陳 (2013) は、若年層母語話者を対象とした意識調査の結果、若い女性母語話者は女性文末詞「～わ」をほとんど使用しないが、どんな時使用するかという質問に半数以上が「ふざけた時」と回答したことを報告している。このような「通常期待される内容や文体からの逸脱 (因 2003)」は、日本語学習者には理解が難しく、解釈を誤る可能性が考えられる。状況とともに形式と意味の関係が観察できるマンガを教材とした因 (2005) の試みを参考に、言葉の性差の位相語的側面と役割語的側面を分けた指導がロシアでもできればと考えている。

注

1. 不備があった回答は除外したため、設問により有効回答者数が異なる。[\(本文に戻る\)](#)

[参考文献]

- 太田眞希恵 (2009) ウサイン・ボルトの“T”は、なぜ「オレ」と訳されるのか：スポーツ放送の「役割語」『放送研究と調査』59(3), 56-73.
- 大和田智文 (2010) 若者における一人称の使用の様相とその機能的意味『関西福祉大学社会福祉学部研究紀要』13, 77-86.
- 尾崎喜光 (1997) 女性専用の文末形式のいま, 現代日本語研究会 (編)『女性の言葉・職場編』ひつじ書房, 33-58.
- 金水敏 (2003)『ヴァーチャル日本語 役割語の謎』岩波書店.
- (編) (2015)『<役割語>小辞典』研究社.
- 小原信利 (2003) ロシア語と日本語を対照して見るジェンダー観-職業を示す名詞の女性形、男性形と、動詞の「女性形」過去形を中心に-『日本語とジェンダー』3,
<https://gender.jp/journal/backnumber/no3_contents/ohara/>2015/12/04 参照.
- 三枝優子 (2010) 小学生の言語意識：自称詞および終助詞を中心に, 遠藤織枝・小林美恵子・桜井隆 (編)『世界をつなぐことば：ことばとジェンダー／日本語教育／中国女文字』169-182.
- 因京子 (2003) マンガに見るジェンダー表現の機能『日本語とジェンダー』3,
<https://gender.jp/journal/backnumber/no3_contents/chinami/>2016/04/17 参照.
- (2005) 日本語学習者の日本語会話解釈上の問題点-日本語学習者によるマンガ理解を通して-『比較社会文化』11, 83-92.
- 陳一吟 (2013)『日本語におけるジェンダー表現-大学生の使用実態および意識を中心に-』花書院.
- 中村桃子 (2003) 言語とジェンダー研究『日本語とジェンダー』3,
<https://gender.jp/journal/backnumber/no3_contents/nakamura/>2015/12/04 参照.
- (2013)『翻訳が作る日本語 ヒロインは「女ことば」を話し続ける』白澤社.
- 水本光美・福盛壽賀子・高田恭子 (2009) 日本語教材に見る女性文末詞-実社会における使用実態調査との比較分析-『日本語とジェンダー』9,
<https://gender.jp/journal/backnumber/no9_contents/mizumoto/>2015/12/05 参照.
- BAKHTIN M.M.(1975) *Voprosy literatury i estetiki*, Hudozh.lit.
- KOROSTELYOVA A.A.(2007) “Sindrom bayouya”, ili zhenskaya rech v ustah student muzhskogo pola v praktike prepodavaniya PKN, GREKOVA O.K.(ed.) *Slovo. Gramatika. Rech*, Izd-vo MGU.
- VASILICHENKO T.V.(2007)*Roman F. M. Dostoevskogo “Bratiya Karamazovi” v angloyazichnih perevodah*, Tomsk.
- ZEMSKAYA E.A., KITAIGORODSKAYA M.B., ROZANOVA N.N.(1993) Osobennosti muzhskoi i zhenskoi rech v sovremennom russkom yazike,ZEMSKOI E.A. i SHMELEVA D.N.(ed.) *Russkii yazik v ego funktsionirovanii: kommunikativno-pragmaticheskii aspekt*, Nauka, 90-136.

(しゅくり ゆきこ・神戸大学後期博士課程)
(カリュジノワ, マリーナ・ノボシビルスク国立教育大学)
(おおうち まさふみ・ノボシビルスク国立工科大学)

(プーリク, イリーナ・シベリア北海道文化センター)
(ミロノワ, リュドミラ・シベリア北海道文化センター)
(シモノワ, エレーナ・ノボシビルスク国立大学)
(ノヴィコワ, オリガ・ノボシビルスク国立経済経営大学)